

作成日：2002 年 01 月 01 日

改訂日：2023 年 05 月 25 日

改訂 第 8 版

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 **速モル B材**
会社名 アサヒボンド工業株式会社
住所 東京都板橋区大谷口北町3-7
担当部門 営業部
電話番号 03-3972-4929
FAX番号 03-3972-4583
緊急連絡電話番号 営業部 03-3972-4929
推奨用途及び使用上の制限: コンクリート欠損補修に限る。
整理番号 30032

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 1
皮膚感作性 : 区分 1
生殖細胞変異原性 : 区分 1B
発がん性 : 区分 1B
生殖毒性 : 区分 1B

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分 3
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分 3

(注) 記載なき GHS 分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

H318 - 重篤な眼の損傷
H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H340 - 遺伝性疾患のおそれ
H350 - 発がんのおそれ
H360 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H402 - 水生生物に有害
H412 - 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

P201 - 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P273 - 環境への放出を避けること。
P261 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P280 - 保護手袋を着用すること。
P272 - 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P280 - 保護眼鏡/保護面を着用すること。
P280 - 指定された個人用保護具を使用すること。

応急措置

P321 - 特別な処置が必要である。

P308 + P313 - ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

P310 - 直ちに医師に連絡すること。

P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

P362 + P364 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

保管

P405 - 施錠して保管すること。

廃棄

P501 - 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

想定される非常事態の概要

粉じんを長期間吸い込むとじん肺の恐れがある。

皮膚などに触れるとかぶれることがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名	化審法番号	CAS No.	含有量 (%)
非晶質シリカ(石英ガラス)	1-548	60676-86-0	30 - 50
焼成粘土	非開示	非開示	30 - 50
ソーダ石灰ホウケイ酸ガラス	非開示	非開示	10 - 30
結晶質シリカ	1-548	14808-60-7	1.0 - 3.0
酸化チタン(IV)	1-558	13463-67-7	1.0 - 2.0
ミネラルスピリット	9-1689; 9-1700; 9-1702	64742-47-8	1.0 - 2.0
2-エチルヘキサン酸コバルト (コバルト及びその化合物)	2-615	136-52-7	0.1 - 1.0 (コバルトとして < 1.0)
非晶質シリカ(シリカゲル、沈降シリカ)	1-548	112926-00-8	0.1 - 1.0

4. 応急措置

吸入した場合

直ちに清浄な水でうがいをし、速やかに医師の手当を受ける。

皮膚(又は髪)に付着した場合

P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。

皮膚にふれた部分を速やかに水または石鹸にて洗浄し、付着した製品を完全に洗い流す。

外観に変化が見られたり、痛みがある場合には速やかに医師の手当を受けさせる。

眼に入った場合

P305 + P351 + P338 - 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

洗眼の際、まぶたを指でよく開き、すみずみまで水が行きわたるように洗浄する。目をこすってはならない。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であったりすると障害を生ずる恐れがある。できるだけ速やかに眼科医の診断/手当てを受ける。

飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄する。気分が悪いときは、速やかに医師の診断/手当てを受ける。

被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

医師に対する特別な注意事項

P321 - 特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

適切な消火剤不燃物。

A 剤との混合物、硬化物の場合、泡消火剤、粉末消火剤、ハロゲン化物消火剤、乾燥砂。

使ってはならない消火剤

不燃物。

A 剤との混合物、硬化物の場合、水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

特有の消火方法

不燃物。

A 剤との混合物、硬化物の場合、全ての着火源、可燃性の物質を周囲から取り除く。火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。消火作業は風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

不燃物。

A 剤との混合物、硬化物の場合、燃焼で発生する有毒なガスを吸い込まないように呼吸器用保護具を着用し、風上から消火作業を行う。保護眼鏡を着用する。消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

作業の際には必ず保護眼鏡や保護手袋等の保護具を着用し、風上から作業する。

環境に対する注意事項

環境への影響を起こさせないよう、河川等へ排出させない。

回収物は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

衝撃や静電気による火花が発生しない材質の用具を用いて回収する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火用機材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

P261 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

目、皮膚、及び衣類に触れないように、8 項に示した保護具を着用する。

漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

(火災・爆発の防止)

火気厳禁。高温物、スパーク、火炎を避ける。

本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま(掃除機のフィルター、ゴミ袋等)処置すると自然発火するおそれがある。

積もった研磨粉は、掃除機は使用せずにほうきで集め、廃棄するまで十分な水に浸しておき、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

(局所排気、全体換気)

全体換気装置、必要に応じて局所排気装置を設置する。

(注意事項)

換気のよい場所で取扱い、粉じんを吸入しないように注意する。

目、皮膚及び衣服に付着させないようにする(第 8 項の保護具を参照)。

休憩場所等に手洗い、洗眼の設備を設ける。

取扱い後に手洗い、洗顔を行なう。

安全取扱注意事項

P201 - 使用前に取扱説明書入手すること。

P202 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P280E - 保護手袋を着用すること。

P280H - 保護眼鏡/保護面を着用すること。

P280 - 指定された個人用保護具を使用すること。

混触危険物質(第 10 項参照)と同一場所に置かない。

A 剤と B 剤を一度に多量混合すると激しい発熱が生じるので行わない。

接着剤成分が付着したウェスやローラー、ダンボールなどの可燃物は自然発火する可能性があるの
で十分な水に浸漬して廃棄する。

接触回避: データなし

衛生対策

P272 - 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P362 + P364 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

作業中は飲食、喫煙をしない。

作業終了時には、石鹼で手を洗う。

保管

安全な保管条件

P405 - 施錠して保管すること。

変質(変形)を防止するため、直射日光、水漏れ、湿気、熱を避けて冷暗所
(好ましくは 20°C 以下)で容器を密閉して保管する。

(避けるべき保管条件)

火災を防止するため、火気、熱源、発火源から離れた場所で保管する。

安全な容器包装材料

密封できるもの。

8. ばく露防止及び保護措置

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

作業環境評価基準(2012) $\leq 0.02\text{mg-Co}/\text{m}^3$

許容濃度

(結晶質シリカ)

日本産衛学会(2022) (吸入性結晶質シリカ) $0.03\text{mg}/\text{m}^3$

(酸化チタン(IV))

日本産衛学会(2022) $1.5\text{mg}/\text{m}^3$ (吸入性粉塵); $2\text{mg}/\text{m}^3$ (総粉塵)

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

日本産衛学会(2022) 0.05mg-Co/m³

(結晶質シリカ)

ACGIH(2023) TWA: 0.025mg/m³(R) (肺線維症; 肺がん)

(酸化チタン(IV))

ACGIH(2023) TWA: 2.5mg/m³(R) (下気道刺激; じん肺症)

(ミネラルスピリット)

ACGIH(2023) TWA: 200mg/m³(P) (皮膚及び上気道刺激; 中枢神経系障害)

特記事項

(ミネラルスピリット)

皮膚吸収

設備対策

局所排気等の設備を設置して作業者がばく露から避けられるようにする。

取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設けることが望ましい。

保護具

呼吸用保護具

防塵マスク。

手の保護具

ポリエチレン製保護手袋。

接着剤の成分が浸透しにくい、かぶれにくくなる。但し、手袋によっては、合わせ目が破れやすいものがあるので、事前に破れないことを確認した上で使用する。

眼の保護具

側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。

皮膚及び身体の保護具

長袖の作業衣。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 粉体
色	: 灰色
臭い	: わずかな特有の芳香臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点	: データなし
沸点範囲	: データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)	: 燃焼しない
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: 燃焼しない
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	
水に対する溶解度	: 不溶
溶媒に対する溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度(空気=1)	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

強酸、強アルカリ以外には安定である。

化学的安定性

第 7 項記載の適切な保管条件においては安定である。

危険有害反応可能性

強酸、強アルカリ。

避けるべき条件

強酸、強アルカリとの混合・接触。

混触危険物質

強酸、強アルカリ。

危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物: データなし

11. 有害性情報

成分情報として、以下のような有害性情報 (ECHA: CLP C&L Inventory) がある。

これらの成分の含有率を勘案して GHS 分類は第 2 項の通りとした。

急性毒性: データなし

皮膚腐食性/刺激性

[成分データ]

(ミネラルスピリット)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、皮膚腐食性/刺激性の有害性を有する。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[成分データ]

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性の有害性を有する。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性[厚労省局長通達]

2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物)

皮膚感作性

[成分データ]

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、皮膚感作性の有害性を有する。

生殖細胞変異原性: データなし

発がん性

[成分データ]

(酸化チタン(IV))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、発がん性の有害性を有する。

[IARC]

(結晶質シリカ)

Group 1 : ヒトに対して発がん性がある

(酸化チタン(IV))

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(コバルト及びその化合物)

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

[ACGIH]

(結晶質シリカ)

A2(2010) : ヒト発がん性の疑いがある

(酸化チタン(IV))

A3(as Finescale particles)(2021) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(ミネラルスピリット)

A3(as total hydrocarbon vapor)(2003) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

[日本産衛学会]

(結晶質シリカ)

第 1 群: ヒトに対して発がん性があると判断できる物質

(酸化チタン(IV))

第 2 群 B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

第 2 群 B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

生殖毒性

[成分データ]

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、生殖毒性の有害性を有する。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[成分データ]

(ミネラルスピリット)

気道刺激性(上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、特定標的臓器毒性(単回ばく露)の有害性を有する。)

(ミネラルスピリット)

麻酔作用(上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、特定標的臓器毒性(単回ばく露)の有害性を有する。)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[成分データ]

(ミネラルスピリット)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、特定標的臓器毒性(反復ばく露 肝臓・精巣)の有害性を有する。

誤えん有害性

[成分データ]

(ミネラルスピリット)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、誤えん有害性の有害性を有する。

12. 環境影響情報

成分情報として、以下のような有害性情報(ECHA: CLP C&L Inventory)がある。

これらの成分の含有率を勘案して GHS 分類は第 2 項の通りとした。

生態毒性

水生環境有害性

漏洩すると環境に影響を与える恐れがある。水系、土壌など環境中に放出してはならない。

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

(ミネラルスピリット)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、水生環境有害性の短期(急性)の有害性を有する。

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、水生環境有害性の短期(急性)の有害性を有する。

水生環境有害性 長期(慢性)

(ミネラルスピリット)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、水生環境有害性の長期(慢性)の有害性を有する。

(2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物)) 上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、水生環境有害性の長期(慢性)の有害性を有する。

水溶解度

(結晶質シリカ)	: 溶けない (ICSC, 2010)
(酸化チタン(IV))	: 溶けない (ICSC, 2002)
(ミネラルスピリット)	: 0.15 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2013)

残留性・分解性

残留性・分解性: データなし

生物蓄積性

生体蓄積性: データなし

土壤中の移動性

土壤中の移動性: データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性: データなし

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

P273 - 環境への放出を避けること。

P501 - 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

廃棄する場合は A 剤、B 剤を少量ずつ混合させ、速やかに十分な水に浸漬させて廃プラスチック類として廃棄する。

単液で廃棄する場合は他の廃棄物と混ぜずに、廃油として廃棄する。

本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま(掃除機のフィルター、ゴミ袋)放置すると自然発火する可能性がある。掃除機は使用せずにほうきで集めて十分な水に浸漬させて廃棄する。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除去した後、上記産業廃棄物業者に委託し廃棄する。

下記に該当するものは残余廃棄物と同様に処理する。

①接着剤成分が付着した可燃物(ウェス、ダンボール、養生シート等)

②接着剤成分が付着した注入用器具、ローラー、刷毛

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	: 該当しない
品名(国連輸送名)	: 該当しない
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	: 該当しない
容器等級	: 該当しない

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号	: 該当しない
品名(国連輸送名)	: 該当しない
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	: 該当しない
容器等級	: 該当しない

IATA (航空危険物規則書)

国連番号	: 該当しない
品名(国連輸送名)	: 該当しない

国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 該当しない

容器等級 : 該当しない

環境有害性

海洋汚染物質(該当/非該当): 非該当

特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実に行う。

MARPOL 73/78 付属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(Y類)

ミネラルスピリット

有害液体物質(Z類)

酸化チタン(IV)

有害でない物質(OS 類)

結晶質シリカ; 非晶質シリカ(石英ガラス); 非晶質シリカ(シリカゲル、沈降シリカ)

MARPOL 条約附属書 V - HME(海洋環境に有害)

発がん性: 区分 1, 1A, 1B 該当物質

ソーダ石灰ホウケイ酸ガラス;

生殖毒性: 区分 1, 1A, 1B 該当物質

2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物)

水生環境有害性: 短期(急性) 区分 1 該当物質

ミネラルスピリット

水生環境有害性: 長期(慢性) 区分 1, 2 該当物質

ミネラルスピリット

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない

労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機溶剤等に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

結晶質シリカ(別表第 9 の 165 の 2)(1.0 - 3.0%); 酸化チタン(IV)(別表第 9 の 191)(1.0 - 2.0%); ミ

ネラルスピリット(別表第 9 の 551)(1.0 - 2.0%);

2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物)(別表第 9 の 172)(0.1 - 1.0%)

名称通知危険/有害物

結晶質シリカ(別表第 9 の 165 の 2)(1.0 - 3.0%); 酸化チタン(IV)(別表第 9 の 191)(1.0 - 2.0%);

ミネラルスピリット(別表第 9 の 551)(1.0 - 2.0%);

2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物)(別表第 9 の 172)(0.1 - 1.0%)

労働安全衛生規則第 577 条の 2 の規定に基づき作業記録等の 30 年間保存の対象となるがん原性物質

結晶質シリカ

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない

消防法に該当しない

大気汚染防止法

有害大気汚染物質

2-エチルヘキサン酸コバルト(コバルト及びその化合物)(中環審第9次答申の60)

16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)
IATA 航空危険物規則書 第64版(2023年)
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2023 TLVs and BEIs. (ACGIH)
JIS Z 7252 : 2019
JIS Z 7253 : 2019
2022 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

責任の限定について

1. 本情報は、作成者の知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、その内容の絶対的な情報の正確性および情報収集の網羅性においては完全ではありません。またその内容は、代表的な実験値や調査に基づくものであり、いかなる保証をなすものではありません。
2. 本記載内容は、材料、製品に関するものであり、この材料が他の素材と組み合わせられた場合、処理された場合については想定しておりません。
3. 特に医薬用途、食品接触用途、化粧品、玩具、肥料または飼料には使用しないで下さい。
4. この材料を適切に使用する最終的決定の責任、およびこの情報をユーザー独自の取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。
5. 全ての材料には未知の危険性があり、取扱いに十分に注意する必要があります。
この SDS には特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないとは
いえません。
6. ご使用に際しては、必ず貴社にてリスクアセスメントと事前テストを行うなどして、使用目的
への適合性や安全性等を確認の上、安全な使用条件を設定してください。
7. 本 SDS の内容は新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。

ここに記載した GHS 分類区分の算定根拠は現時点における EU 公表データ (Consolidated version of the CLP Regulation published in 17/12/2022 and Commission delegated regulation (EU) 2022/692 (ATP18))です。